

各 位

平成18年10月27日

会社名 松 尾 電 機 株 式 会 社
代表者名 代表取締役社長執行役員 清水 巧
コード番号 6 9 6 9 大証市場第2部
問合せ先 執行役員・総務経理部門長 竹野井 薫
TEL (06)6332-0871

平成19年3月期中間期及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等をふまえ、平成18年5月23日の決算発表時に公表した、平成19年3月期（平成18年4月1日～平成19年3月31日）の業績を下記のとおり修正致します。

記

A. 中間業績予想の修正

1. 連結業績予想の修正

(単位：百万円,%)

	売 上 高	営業利益（損失）	経常利益（損失）	当期純利益（損失）
前回発表予想 (A)	4,130	40	40	30
今回修正予想 (B)	4,036	△ 25	△ 30	△ 43
増 減 額 (B-A)	△ 94	△ 65	△ 70	△ 73
増 減 率 (%)	△ 2.3	—	—	—
前年同期実績 (平成18年3月期)	4,140	24	11	21

2. 単独業績予想の修正

(単位：百万円,%)

	売 上 高	営業利益	経常利益（損失）	当期純利益（損失）
前回発表予想 (A)	4,100	40	45	35
今回修正予想 (B)	4,007	2	△ 4	△ 15
増 減 額 (B-A)	△ 93	△ 38	△ 49	△ 50
増 減 率 (%)	△ 2.3	△ 95.0	—	—
前年同期実績 (平成18年3月期)	4,087	32	20	31

B. 通期業績予想の修正

1. 連結業績予想の修正

(単位：百万円,%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	8,460	130	130	115
今回修正予想 (B)	8,350	90	90	65
増減額 (B-A)	△ 110	△ 40	△ 40	△ 50
増減率 (%)	△ 1.3	△ 30.8	△ 30.8	△ 43.5
前年同期実績 (平成18年3月期)	8,177	73	67	59

2. 単独業績予想の修正

(単位：百万円,%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	8,400	130	130	120
今回修正予想 (B)	8,300	80	80	55
増減額 (B-A)	△ 100	△ 50	△ 50	△ 65
増減率 (%)	△ 1.2	△ 38.5	△ 38.5	△ 54.2
前年同期実績 (平成18年3月期)	8,099	90	89	85

C. 修正理由

【連結】

当社グループは tantalum コンデンサ、回路保護部品の製造・販売を事業としており、当上半期連結総売上に占める割合は前者が約83%、後者が約11%です。

当上半期に於いて、主力の tantalum コンデンサは、車載向、産業用機器向品を中心に堅調に推移し、ビデオカメラ、デジタルカメラ等、民生用電子機器の小型化・薄型化に適合した超小型 tantalum コンデンサの売上も増加して、前年同期比3.5%増加する見込みです。しかし、従来順調に売上が増加していた回路保護部品は、海外売上は増加したものの国内民生用電子機器向け売上が大幅に減少したため、前年同期比28.0%減少するものと見込んでいます。

なお、海外売上（当上半期連結総売上の約24%）については、携帯電話向け tantalum コンデンサを中心に販売に努めましたが、微減となる見込みです。

以上、当上半期連結売上高は前年同期に比して103百万円減少して、4,036百万円（前年同期比2.5%減）となる見込みです。

費用面につきましては、導電性高分子 tantalum コンデンサ、導電性高分子アルミ電解コンデンサの開発・量産化のための費用、下面電極構造チップ tantalum コンデンサの拡張品を中心とした増産に係る費用が増加しました。

連結子会社の状況については、回路保護部品の約半数を製造している島根松尾電子(株)について、回路保護部品の売上が減少したことにより採算性が悪化しました。また、北米市場での当社製品の販売を行っているマツオ・エレクトロニクス・オブ・アメリカは、米国内生産拠点の中国・東南アジアへの移転により売上が減少し、業績は低迷する見込みです。

以上の結果、誠に遺憾ながら当上半期の業績は、いずれも前回発表値を下回るものと見込んでいます。

下半期については、市場要求は引続き多様化・短納期化し、且つ価格競争は更に激化して厳しい経営環境が続きますが、tantalum コンデンサにつきましては、上半期の流れを引継ぎ、数量的には概ね堅調に推移するものと見込んでおり、その中でも、ラインナップを充実させた下面電極構造チップ tantalum コンデ

ンサの増産が売上へ寄与するものと見込んでいます。また、回路保護部品については、チップヒューズの5面電極品等の新製品について売上への寄与を見込んでおり、業績は幾分回復するものと見込んでいます。

なお、現在拡販に尽力しています導電性高分子コンデンサについては、既に出荷は開始していますが、下半期での売上への寄与は限定的なものと見込んでいます。また、完全鉛フリー対応品のヒューズ内蔵チップタンタルコンデンサの販売開始を下半期に予定しています。

【単体】

上記【連結】に記載した理由と同様の理由により、前回発表値を修正いたします。

(注)上記業績予想につきましては、現時点で入手利用可能な情報からの判断に基づき作成したものであり、様々な不確定要因が内在しています。今後当社グループを取り巻く市場の経済情勢等により実際の業績は、上記記載の業績予想数値と異なる可能性があります。

以 上